

平成28年度 小域立桜岡小学校 学校評価計画

<b>1 学校教育目標</b>	<b>2 本年度の重点目標</b>
徳・知・体のバランスの取れた質の高い桜っ子の育成 —桜岡「や」「か」「た」づくり—	① 学力の向上 ② 生徒指導の充実 ③ 体力向上の取り組み ④ 教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施 ⑤ 特別支援教育の充実

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

**3 目標・評価**

**① 学力の向上**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	● 学力の向上	分かる授業への改善を行ったか。	・しっかり考える場を設定する。 ・考えを表現し、伝え合う場を工夫する。 ・特設タイムの指導の充実を図る。 ・算数の重点単元の指導の強化を図る。 ・補充学習の場を設定する。	・自分の考えを書く場を設定する。 ・「すいすいタイム」と「桜っ子タイム」の計画を見直し、充実させる。 ・重点単元の指導体制の強化を図る。 ・給食前の「はらへこ算数」の場を設定し、個別に支援できる体制をつくる。
教育活動	● 学力の向上	児童の基本的な学習習慣は育成できたか。	・背筋を伸ばし、相手の目を見て、手を膝におく「背・目・手」を意識した学習態度を、85%以上の児童が身につける。	・授業の始まりと終わりに「背・目・手」と号令をかけ、姿勢をよくして、学習の構えを作る。 ・ノートの書き方を具体的に指導する。 ・休み時間の合い言葉「さ・く・ら」を職員間で共通理解し、各学級で徹底していく。 ・「さ」つと片付け、「く」らすみなどで次の準備、な「ら」んでトイレ
教育活動	● 学力の向上	家庭学習の充実を果たせたか。	・「低学年30分」、「中学年45分」、「高学年60分以上」を目標に家庭学習を行う習慣を身につける。	・家庭との連携を深め、家庭学習カードを活用する。 ・「家庭学習の手引き」を全家庭に配布し活用を呼び掛ける。 ・自学ノートのモデルを活用して意欲をもたせる。

**② 生徒指導の充実**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	● 心の教育	子どもの支援体制づくりとケース会議の充実は図れたか。	・保護者から相談しやすいと思われる認知度を80%以上に上げる。 ・不登校児への対応を図る。	・気になることを、家庭と連絡しあうよう努める。 ・子どもを支援する校内委員会を充実する。 ・見守りたい子の共通理解を図る。(年4回見守りたい子の連絡会と毎月の生徒指導会) ・相談体制の充実を図る。 ・欠席者報告票による児童の状況を把握する。 ・毎月1回の生活指導会を実施する。
教育活動	● 心の教育	笑顔であいさつを行ったか。	・進んで、元気に、笑顔であいさつする子を80%以上に上げる。	・毎週火曜日の「あいさつ運動」に自主性を持たせるように工夫する。 ・教師が率先して、元気なあいさつを行う。 ・「親子であいさつ豊かな一日」をPTAと共に具体的に取り組む。
教育活動	● いじめ問題への対応	いじめの早期発見と早期対応はできたか。	・いじめを早期に発見し、早期対応をすることにより深刻化を防ぐ。	・朝の会や帰りの会で「いじめ0宣言」を行う。 ・年間6回の「すっきりここにアンケート」を行い、いじめの早期発見に努める。 ・毎月10日に「心を考える日」の取り組みを行う。
学校運営	● いじめ問題への対応	いじめに教職員一体となった対応ができたか。	・いじめに一人に対応することなく、教職員が協力して課題解決にあたる。	・学年グループ、生徒指導部、教育相談部が中心となって、複数の目で児童理解に努め、いじめの防止・対応にあたる。

**③ 体力向上の取り組み**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	● 健康・体づくり	外遊びの奨励と体育活動の充実を図ることで体力は向上したか。	・外遊びの奨励と体育活動の充実で体力の向上を図る。	・20分休み、昼休みは、外で遊ぶ。 ・マラソン大会・長縄とび大会の実施。 ・わくわくタイムでの共遊(異学年交流)。 ・主体的な体育学習のカードの活用を図る。
教育活動	● 健康・体づくり	新体力テストの実施によって全児童の実態把握ができたか。	・計画的に新体力テストを実施する。 ・体育授業における6年間を通した体力向上に取り組む。	・6年間を見通した「体づくり運動」に計画的に取り組む。 ・実態把握によって、特に落ち込んでいる分野の向上を図る取り組みを行う。

**④ 教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	● 教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	ICTを活用して学力の向上を図ったか。	・ICT機器を有効に活用して、効率的な学習活動を工夫する。	・デジタル教科書の活用方法を工夫する。 ・ICTの活用を通じた授業実践について、校内研究の中に位置づけて、取り組む。
教育活動	● 教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	教職員のICTを活用した実践力が向上したか。	・電子黒板を活用した授業ができる教職員の割合を100%にする。	・全教職員が参加する校内研修会を通じて、実践力の向上を図る。 ・先進的な取り組みを紹介し、自己研鑽の資料として活用する。
教育活動	● 教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	児童の情報活用能力が高まったか。	・ICT機器を用いて、調べ活動をし、情報を発信したりする能力を高める。	・インターネットでの調べ活動を、いろいろな教科の中で取り入れる。 ・電子黒板を使って発表させたり、パソコンの利活用に慣れ親しませる。

**⑤ 特別支援教育の充実**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○ 特別支援教育の充実	特別支援教育への教職員の共通理解を図れたか。	・特別支援教育に関する校内支援委員会を充実させる。	・定期的な校内支援委員会に加えて、必要に応じて臨時の支援会議を開き、全教職員で共通理解を深める。
学校運営	○ 特別支援教育の充実	教職員の知識・理解を深めることができたか。	・校内研修会で特別支援教育について研修を行う。	・校内研修会を通じて教職員の知識・理解を深める。 ・障害のある児童の学校生活支援のための巡回相談員及び専門家の派遣を依頼し、支援を仰ぐ。
教育活動	○ 特別支援教育の充実	「個別の指導計画」及び「個別の教育支援計画」を作成・更新したか。	・支援が必要な児童に対して、「個別の指導計画」及び「個別の教育支援計画」を作成・更新し、効果的な活用を行う。	・支援が必要な全ての児童の「個別の指導計画」及び「個別の教育支援計画」を計画的に作成・更新する。

●は共通評価項目、○は独自評価項目